2024_1119「誠に驚くべき天体写真」日々の理科 3757 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

先日下見をした、お茶の水女子大学構内の天体写真撮影ポイントの「文教育学部一号館屋上」に、今日も施設課で鍵を借りて行ってきました。今夜は快晴で月明もなく、シーイング（大気の状態）も良かったので、まあ、いくつかの星は撮影できるだろう・・・ぐらいの気持ちで行きました。

使った機材は、天体写真儀「Seestar」と自分のスマホだけです。18 時を過ぎるとすっかりくｋらくなったので、まずは天頂（観測者から見て頭上）付近に位置する、「アンドロメダ銀河（M31）」を狙ってみました。この銀河は太陽系の隣にある銀河で、「地球から肉眼で見える最も遠い物体」とされています。「隣の銀河」といっても、太陽系からの距離は約 250 万光年です。北軽井沢では確かに裸眼で見えますが、東京では双眼鏡を使っても、やっと淡い光芒が見える程度です。

ところが、Seestar の撮った写真を見て、文字通り「仰天」しました。東京の山手線内で撮影したとは思えないほど、鮮明に銀河の姿をとらえていたのです。もともとデジタルの天体機器は、都市部の「光害」に強いと言われてはいましたが、この都会の夜空でここまで写せるとは、ただただ驚異としか言いようがありません。この冬は「大都会天体観測」を続けて、さまざまな星雲や銀河を撮影したいと思いました。

（2024 年 11 月 19 日／お茶の水女子大学文教育学部一号館屋上／東京都文京区／Seestar で撮影／180 秒露光）